

クマから身を守るために

クマから身を守るための注意事項

初夏は、クマが繁殖期を迎えるとともに、同時期に子別れし、クマが活発に行動することがあります。
秋季は、クマが冬眠に備え、ドングリなどのエサを求めて活発に行動します。
ハイキングや山菜採り、キノコ狩りなどで山へ出かける際には、クマから身を守るため、次のことに注意しましょう。

山でクマと出会わないために

- クマが生息している森に入るときは、クマに自分の居場所を知らせる工夫をしましょう。
クマは警戒心が強く、理由なく人間に近づくようなことはしません。
クマ鈴、携帯ラジオなどを鳴らしながら森に入りましょう。
- クマの糞や足跡などの痕跡を見つけたら、その先には行かない、引き返すなどの回避行動が必要です。
- 山菜やキノコ採りなどでは採集に集中しがちなので、周囲の異変に気付けない場合があります。
時々周囲に注意し、笹藪など見通しの利かない場所には不用意に入り込まないようにしましょう。
また、2人以上で行動するようにしましょう。
- 悪天候時、夕暮れ時は視認しにくい場合が多いので、特に注意が必要です。
また、川や沢の近くでは水音によって、接近するまで気が付かないこともあります。

クマを引き寄せないために

- 釣りやキャンプをするときは、食べ物の置き場所に注意し、ごみは必ず持ち帰りましょう。
クマの食べ物になるものを放置すると、クマをおびき寄せることになって危険です。
また、一度クマが口をつけた食べ物は、クマにとっては「自分の食べ物」になります。

クマに出会ってしまったら

- クマに出会ったら、静かに身を引くようにしましょう。
もし近くでばったりクマに出会ってしまったら、慌てて逃げるようなことはせず、クマをじっと見ながら背中を見せず、ゆっくりと離れていきましょう。
クマを驚かすような動作をするとかえって危険です。
- 親子グマには十分に注意しましょう。
子グマを見かけても、そっと立ち去りましょう。近くには必ず母グマがいます。
子育て中の母グマは神経質になっているため、大変危険です。

人里周辺へのクマの出没を防ぐために

- 生ごみや不要になった農作物を放置しないように管理を徹底しましょう。
人家の周辺に、生ごみなどの誘引物を置かないようにしましょう。
庭先の柿や栗は収穫し、未収穫の作物を放置しないようにしましょう。
- 果樹園や養蜂場は、電気柵などの防除設備を設置しましょう。
- 家屋周辺にクマが潜みやすい藪や草むらがある場合は、適切に刈り払い見通しをよくしましょう。